

看護者のかかわる精神科作業レク療法

芸西病院

森 岡 三重子（11回生）

有 沢 広 子（25回生）

1. はじめに

精神科作業療法とは、「患者との間のなんらかの効果的な活動を媒介にして、治療の人間関係の促進を図る療法であって、種々な心理機制によって示される情動的欲求の浄化あるいは昇華など、力動的理論が基調になっている。したがって、患者に対しては、当然、心理療法的な働きかけが必要であり、諸活動－作業種目－は、治療上の単なる二次的手段にしかすぎない。」と一般的には概念規定されている。

歴史的に見ていくと、古代ギリシャ、ローマ時代において、ヒポクラテスの治療法が、純身体的であったのに対し、アスクレピアデスは、心理面を重視する立場をとり、精神病患者を楽にさせるため、入浴、音楽、マッサージを用いた。ヌガレノスは、「作業は、自然が与えた最良の医師である。」と説いている。18世紀、フランスのピネルは、フランス革命の時代の精神に影響され、病院改革に取り組み、周囲の反対を押し切って、患者から鎖や足かせを取り除いていった。その後各国でも、患者開放の動きはだんだん高まり、1792年、クエーカー教徒によって設立されたヨーク救護所は、当初から患者の人間の扱い、自由、作業が指導理念であり、無拘束の運動、作業療法の推進に、多大な影響を及ぼした。

日本でも1953年前後から、松沢病院を中心にして、作業療法、遊び療法、レクリエーション療法が盛んに行なわれるようになってきた。このように作業、レク療法を推進してきた先人の基本的理念は、洋の東西を問わず、患者の人間性の尊重、自由、無拘束、労働という点で全く一致している。

ところで、これら精神科作業療法の理念に基づいて、より効果的に作業、レクにたずさわっていく部門としては、患者と接する機会が最も多く、しかも、患者の家族的社会的背景をも含めた理解ができ、現在の病状、心理的变化等をも観察しやすい看護部門でイニシアティブをとるのが最適であると我々は考える。そしてこの業務は、看護処置の片手間にできる内容ではなく、看護部門の中でも、作業、レクを専属に担当する部所が必要である。

以上のような基本的な考え方に基づき、当院では、患者に必要な作業、レクの種目を選定してスケジュールを作り、患者の誘導、準備、実施、後始末、記録、評価と一連の過程を受け持つ部門として企画室が発足した。

今回は、当院の企画室の活動を、精神分裂病の患者とのかかわりを通じて、看護部門の中で作業、レクを担当していく意義について考えてみたいと思う。

2. 企画室の紹介

(イ) 看護部の組織

先程も述べたように企画室は、作業、レクを担当する看護の一部門である。看護の組織は次の様になっている。(図1参照)

(ロ) 企画室の運営

実際の運営の仕方であるが、院内の大きな行事、たとえば、文化祭、運動会等は、企画室を中心に、院内の他の部門(事務、薬局、調理、検査室等)から実行委員が出て、実行委員会を組織して、病院全体で取り組みをする。その他については、1ヶ月に1回開く企画委員会で、大まかなスケジュールを決定し、その決定に基づいて、企画室で、月間のスケジュールをたてる。参考までに昭和54年度の年間行事表と今年7月、1ヶ月の計画表を提示する。(表1、2)毎日の作業、レクの運営にあたるのは、企画室のメンバーと開放病棟のその日の企画室勤務者である。

3. 症 例

ここで患者Yについて紹介しよう。

氏名：Y. O 38才の男性 精神分裂病の患者である。今回が初回入院である。

(イ) 生育歴

6人兄弟の4番目ですぐ上が姉で後は全部男の兄弟である。小学校時代から他の兄弟とちがいに怒りっぽかった。気はやさしかったが友人は少なく、皆の中にとけこんでいたり、うちとけたりすることが少ない子であった。中学時代は、相変らず短気で無口で目立たない子であった。中学卒業後、東京の製菓会社に就職3～4年後帰高し、タクシー運転手やM乳業の運転手などをした後、長兄をたよって再上京し看板業の手伝いを2～3年した。その後高知にもどってしばらく看板屋をした後、自営看板業をはじめる。今まで結婚話は数回あったが、相手をいやがり現在まで独身である。

(ロ) 現病歴

5～6年前、ある1人の女性をめぐって同僚と気まずくなり、職場内で村八分にされた。この時思い余って金光教の信者である友人をたより入信する。

3～4年前から近所の人が自分の悪口を言うと言いはじめ、家人がそんなことはないと言説得していた。職場でも他の人が上から何か落して怪我させてやろうとしているなどと言いはじめ

た。しかし家人も本人も病気だとは思わず、そのまま生活していた。

ところが最近になって見合い話がもち上がり本人も乗り気で、日取りまで決まっていた矢先、友人宅で精神運動興奮状態におち入り、友人宅を出て市内の交差点に車を乗り捨てて金光教にかけこみ暴れて保護され、54年12月17日当院の保護室へ入院となる。

(イ) 入院中の経過

55年1月6日まで閉鎖病棟におり、1月7日開放に出る。しばらくは作業、レクへの参加も少なかったが、徐々に落ち着き、2月7日のマラソン大会で使用するゼッケン作りを依頼すると快く承諾し、「やっとこれで仕事ができる。退屈せんですむ。うれしい」と言う。事実彼は非常に熱心に仕事に取り組み50組のゼッケンを3日で仕上げた。ゼッケン作りを契機として、作業、レクへの意欲が出はじめ、積極的に参加するようになり、特に紙作業を喜んでいた。又、病気が治ったかどうかためすために、金光教のある高知市内へ外出をするという試みをしたが、この外出は、まだまだ不安が多く、外出から帰ってイライラを訴えていた。これがなくなったのは3月4日療養者作品展の見学で高知大丸へ行ってからである。この時は病院に帰るとさもうれしそうに、「今日は高知へ行ったけど、悪うならざった。もう治ったにかあらん。自信がついてきた。」看護婦に語っている。この後より外出も頻回になり、外出による動揺も少なくなった。

作業、レクに意欲を見せはじめるのと時を同じくして、その中に少しづつ病識が出てきたようである。例えば2月11日「僕は精神病やき、もし友人に会ったりしたら困る。」と看護婦に話し、又その頃「それにしても幻聴というのは不思議やねえ。Uさんもあったそうやけど自分の悪口をうわさしている声が聞えるから気になった。高知の仕事場やその付近では聞えて、田舎では聞えん。とれるろうかねえ。」とも言っている。主治医にも、「外泊中町に出ると悪口が聞えてきた。自分のことではないことを言っているのに自分のことだと思った。」と話している。

3月の中頃になると、病識もかなりはっきりとしてき、紙作業中に他患と、「僕は今まで分裂病やいう病気があることも知らざった。恐い病気やねえ。治るがやおか。いつまでたっても退院できそうにない。」などとさかんに話している。しかしこの時期Yは、非常に熱心に作業、レクに参加し、院内アルバイトにも出だした。3月末には、非常に状態が落ち着き、動作も少しスピードが出てき、本人の希望もあり、外勤を考えてみることにした。病院の近くのガソリンスタンドに4月1日より半日勤務をすることになった。

ところが第1日目の勤務から帰った時表情暗く、無口になっていた。感想を聞いても「別に……。ひまであんまりすることがない。」と言葉少なに語っていた。夕方詰所に来て、「イライラがおこってきた。困った。どうもようせんかもしれん。」と落ち着きなく言う。翌日も行

くには行ったが帰ってきてても元気がなく、「ようせん。イライラする。」をくり返した。3日目帰ってきて、外勤担当者と面接の上アルバイトは中止になった。外勤に失敗したショックか、作業、レクに出てきても表情暗く、作業も長続きしなかった。1週間ぐらいでやっと落ち着きを取りもどし、自分の専門を生かす看板業にもどるという具体的な目標を自分で設定し、そのための準備も兼ねて、外泊をくり返し5月7日退院した。

ロールシャッハのテストでは、セックス反応が多発している。その理由を本人は、常に女性のことで失敗してきたからだと言っている。現に院内でも1人の女性と仲良くなり、よく手をつないで浜に散歩に行ったり、作業にも一緒に出ている。

4. 考 察

以上述べたYの入院経過の中から彼の状態を大きく変えた点について考察を試みる。

まず第一点は2月3日のゼッケン作りである。1月19日にアルバイトの相談(かなり強引にアルバイトを希望し、順序として作業、レクからするようにと説得しても拒否し、アルバイトをさせてくれないなら、ここを飛び出して退院すると立腹した。)に来た時から、何か院内で、彼の希望にかなう作業はないかと考えていたところ、マラソン大会にゼッケンを使用することになり、その数字を彼に書いてもらうことを思いついた。その結果は、前にも述べた通り非常によく、これをきっかけに作業、レクへの参加が積極的になった。中卒という学歴に劣等感を持っている彼に自信を持たせるには、彼の専門性を発揮できるようにすることが一番よいと考えたことが、この結果をもたらし、病状を好転させたものと思われる。

第二点は、3月4日の療養者作品展の見学で高知大丸へ行ったことである。はじめ作品展見学の希望をとった時、Yは希望しなかった。紙作業の時にもう一度誘ってみたが、「高知へ行ったら金光教があるき、又、イライラがおこりそうやき行かん。」と拒否した。集団で行くので、これを機会に市内へ行くことに対するアレルギーが、ひょっとすると解消するのではないかという期待もあったのだが、本人の意向を尊重して、次の機会を待とうと思っていた。ところが、その翌日、紙作業中に突然本人が、「高知へ行ってみろか。今から申し込んでもかまん？」と言いだした。「うん、かまんよ。」と答えると、「行こうか。いや、やっぱりやめちょうか。」と迷っている様子であった。すると一緒に仕事をしていた他の患者達が、「僕も行くき、一緒に行こうや。」とか、「みんなで行くがやき、心配せんでもえいぜえ。」とか、「なんちゃあじゃない、どうして市内へ行ってイライラがおこるぜ。そんなことがあるか、行こう、行こう。」などと口々にYを誘い、Yも行く決心をした。私は内心非常に喜ぶと同時に、看護者对患者というかわり方よりも患者对患者のかかわりの中でYの心が動いたことに感心させられた。その後も度々こういう場면을体験し、患者の仲間づくりに作業、レクが大きな役割を果たしていることを痛感する

のである。

第三点は外勤の件である。今までに述べた2つの点を契機としてYは、非常に積極的に作業、レクに参加し、リーダーシップがとれるようになっていた。イライラもおこらず、院内のアルバイトにも精を出して、徐々に退院の見通しも持てるようになった。入院生活の最後の仕上げとして外勤を考えた。Yも意欲的であったが、先述の通り3日間で中止となった。外勤を中止すると同時にイライラ感は消失している。何故外勤に失敗したかについて、本人は、「わからない。けれど新しい職場に対する緊張があったことはたしかだ。」と言い、自分の中の劣等感のせいではないかと彼なりに分析している。看護者側からみてもこれと思ひあたるふしもなく、本人の言っているように、新しい職場に対する緊張がかなり強かったのではないだろうか。又、当時外勤のいやな理由として、何もすることがないと言っていたことから、本人が仕事に対して持っていたイメージと現実とがあまりにも違いすぎたのではないかと考えられる。

以上考察してきた点から我々は看護部門の中で作業、レクを行っていくことの意義を次のように考える。

- 1 看護婦として患者を把握するために、患者の状態を正確に観察でき、個々の特性を生かす方向で作業種目の選定をしたり、到達目標を設定することが比較的容易である。
- 2 考察の第二点の例からもわかるように、患者どうしが良い仲間作りをするための潤滑油の役割を果たすことができる。それは、病棟内での人間関係や個々の患者の特性などを把握しているので、患者に対して適切なアドバイスや必要に応じての配慮をすることができるからであろう。
- 3 作業、レクを患者と共体験することにより、一緒に喜んだり、悲しんだりの感情表現ができる。病棟内でも共通の話題が多くなり、患者と親密な人間関係を形成しやすい。

以上である。

5. まとめ

我々は、この研究発表の中で当病院に企画室の発足した経過、活動状況を簡単に述べ、さらに1症例を通して、看護部門が受け持つ作業、レクについてその意義を考察してきた。

最近の精神科医療の方向は開放化に向って進んでおり、それに比例して、作業療法、レクリエーション療法もますます重要視されている。我々企画室が行なっている作業、レクはまだまだ充足しているとは言いがたく、今後改善しなければならない点も多々ある。しかしながら我々は、これから作業、レクの仕事を看護部の中へ位置づけて、努力を続けて行きたいと思う。

図 I

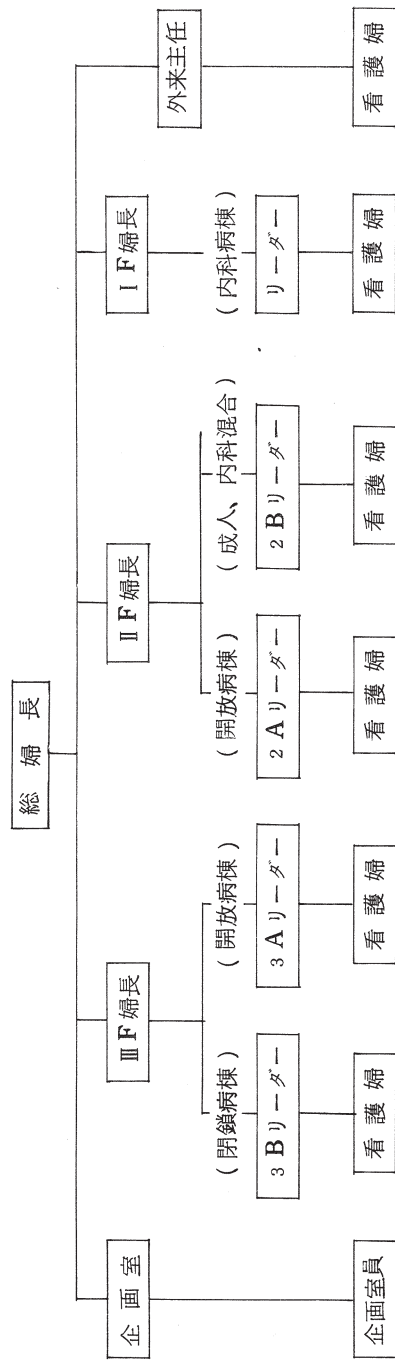


表 I

昭和 5 5 年 予定表

月	一般行事	体 育 行 事
1 月	初詣	
2 月	療養者作品展	マラソン大会
3 月	ひな祭	院内バレーボール大会 卓球大会 (県大会)
4 月	お花見	ソフトボール大会 (院内)
5 月	文化祭	

表 II

7 月 作 業、レ ク ス ケ ュー ル 表

日	全 体 行 事			グ ル ー プ 別 行 事	
	A M	P M		A M	P M
1 火	シーツ交換、紙作業			クッキング (2 F)	卓球
2 水	農作業 "				手芸、書道
3 木	病棟内清掃 "		バドミントン、バレー	クッキング (3 F)	
4 金	" "			花壇作り	
5 土	ミーティング "				絵画
6 日					
7 月	農作業 紙作業				華道、フォークダンス
8 火	シーツ交換 "			クッキング (3 F)	卓球、硬筆

6 月	ハイキング	ソフトボール大会 (県)
7 月	七夕祭	キャンプ
8 月	盆踊大会	
9 月	院内敬老の日	ソフトボール大会 (県)
10 月		運動会
11 月		卓球大会(芸西村) 院内卓球大会
12 月	クリスマス	

9 水	農作業	"		音楽、書道
10 木	病棟内清掃	"	七夕祭(17:30より)	花壇作り、クッキング(2F)
11 金		"	バドミントン、バレー	俳句会
12 土	ミーティング	"		絵画
13 日				
14 月	キャンプ準備			
15 火	一次キャンプ(天狗高原)			
16 水				
17 木	農作業、キャンプの後片付け			華道、卓球
18 金			バドミントン バレー	クッキング(2F)硬筆
19 土	ミーティング紙作業			クッキング(3F)
20 日				
21 月	キャンプ準備			
22 火	二次キャンプ(梶ヶ森)			
23 水				
24 木	農作業、キャンプ後片付け			フォークダンス
25 金	紙作業		バドミントン バレー	
26 土	ミーティング	"		硬筆
27 日				
28 月	農作業 紙作業			手芸、書道
29 火	シーツ交換	"	水泳	クッキング(3F)
30 水	農作業	"		クッキング(2F)
31 木	病棟内清掃	"		花壇作り
				華道、絵画